

CHIBA PARASPORTS PROJECT

(千葉パラスポーツプロジェクト)

報告書

令和 2 年度 スポーツ庁委託事業
『障害者スポーツ推進プロジェクト』
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」



smile club
surroundings where everyone can easily enjoy sports
SINCE 2000

2021年3月

NPO法人スマイルクラブ

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	(1)
本プロジェクトにあたり・・・・・・・・	(2)
本プロジェクト概要・・・・・・・・	(3)
本プロジェクト結果・・・・・・・・	(4)
1) 別紙1 (委員会資料)	
2) 別紙2 (ハンドブック資料)	
3) 別紙3 (CD資料)	
スマイルクラブ概要・・・・・・・・	(10)

はじめに

NPO法人スマイルクラブは、2000年に総合型地域スポーツクラブ（以下 地域スポーツクラブ）としてスタートしました。ちょうど、スポーツ振興基本計画として文科省が各市町村に1つのクラブを設立目標として推進された年でもあります。それから20年が経過し、日本の地域スポーツクラブ数は2019年3月のスポーツ庁の報告書によれば、全国に3,599件（クラブ育成率80.8%）となっており、ほぼ横ばい状態となっています。

20年経過した私たち地域スポーツクラブは、地域にどこまで貢献できたのか？あるいは地域の人たちにどこまで受け入れられたのか？特にこの2020年度は新型コロナウイルス感染症で始まり、終わりました。このような時代に、地域スポーツクラブは何ができたのか？を毎日考えながら活動しています。

2020年4月の緊急事態宣言で学校施設や公共施設等が使えず、スポーツ活動がまったくできず大変な年でもありました。さらには2021年1月に2度目の緊急事態宣言が発出され、再度スポーツ教室での収入は閉ざされ、どうやって運営をしていけばいいのかを模索していました。おそらく多くの地域スポーツクラブは、このような状況ではないかと推察いたします。

一方でドイツの地域スポーツクラブとの交流も、コロナまでは10年連続しておこなってきました。そこでの大きなヒントは「社会公益性」（福祉分野や医療連携領域など）というテーマでした。つまり、障がい児（者）や運動療法など地域のいろいろな方に必要なプログラムも積極的に取り入れ、地域の人材（障がい児指導専門家や医療関係者等）を活用しながら活動している姿でした。

そして、今回スポーツ庁「障害者スポーツ推進プロジェクト」に採択され、このテーマについて、地域スポーツクラブとしてどう考え、スマイルクラブの地元である千葉県の協力を得ながら進めてまいりました。

そして、この報告書が皆様にどれほどお役に立てるかは分かりませんが、一つのヒントとしてお役に立つことができれば幸甚と考えておりますので、どうぞこの機会にご一読いただければと存じます。

2021年3月

NPO法人スマイルクラブ

理事長 大浜 あつ子

本プロジェクトにあたり

今回のスポーツ庁委託事業は、障がい者（この報告書の中では、基本的に「障がい」を使用）スポーツ推進のために、その受け皿のひとつとなっている総合型地域スポーツクラブ（以下 地域スポーツクラブ）であるスマイルクラブが、千葉県と連携しモデル的に障がい者スポーツのイベントや人材養成などを、学校や地域の体育館等で直接おこなう予定でした。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発出され、学校もお休みとなり、外出も制限され、直接事業をおこなうことができなくなり、コロナ時でも対応できる方向へ内容を変更せざるを得ませんでした。

本来、スポーツは直接見たり、聞いたり、体験したりすることで「感動」、「すばらしさ」、「むずかしさ」など様々なものを伝えることができますが、今回の感染症により、新たな伝え方を創出しそれにチャレンジし、もって障がい者スポーツの推進をはかりたいと考えました。

一方で、地域スポーツクラブはこの新型コロナウイルス感染症により学校開放による体育館等の施設が使えなくなり、活動休止をせざるをえず、経営的に苦しい状況でもあることも報告されています。そのような中、2021年1月に2度目の緊急事態宣言が発出され、それに拍車をかけている状況です。

そこでこのような困難な時代に、この委託事業をきっかけに地域スポーツの今後の運営のひとつのキーワードとして「社会公益性」（福祉領域や医療連携等）を掲げ、その具体的な事例についてもご紹介することで、この事業がさらに発展できるものと考え、「社会公益性」に関する具体的な事例も追加させていただきました。

なぜならそのことで、このコロナの時代に障がい者スポーツの受け皿となっている全国の地域スポーツクラブの自立継続のための、きっかけにもつながると考えたからです。そして多くの地域の方々に喜んでもらえるクラブとなり、必要で愛されるクラブとしても深化できるものと考えたからです。

最後に今回の事業で、千葉県はじめ委員の方々など多くの方にご協力いただき、この紙面を借り、あらためて厚くお礼申し上げます。

2021年 3月

NPO法人スマイルクラブ理事

本プロジェクト事務局責任者 大浜 三平

本プロジェクトの概要

1 本プロジェクト名

千葉パラスポーツプロジェクト (CHIBA PARASPORTS PROJECT)

2 本プロジェクトの目的

スマイルクラブが千葉県と連携し、新型コロナウイルス感染症時にも対応できる、障がい者スポーツハンドブック等を作成することにより、障がいのある人が施設や自宅等でスポーツを楽しむことができる環境を整備することを目的とする。

3 目標（下記成果物とその配布）

- 1) 障がい者スポーツハンドブックの作成
- 2) パラスポーツ紹介事例（パラバドミントン）動画作成
パラバドミントンの動画作成し、CDとして配布
- 3) 上記ハンドブックおよびCDの配布
学校、地域スポーツクラブ等

4 方法

- 1) 委員会の開催（※各委員については、下記参照）
- 2) 事務局の設置
- 3) 関係者への成果物の配布

5 委員会委員（敬称略、順不同）

- 1) 委員長 大浜 あつ子（NPO法人スマイルクラブ理事長）
- 2) 委員 渡邊 国剛（千葉県教育庁教育振興部体育課スポーツ推進室生涯スポーツ班）
- 3) 同 桃木 一（同上）
- 4) 同 安藤 裕一（株式会社GMSSヒューマンラボ代表取締役、医師、スポーツドクター）
- 5) 同 谷藤 千香（千葉大学大学院国際学術研究院国際教養学部准教授）
- 6) 同 兒玉 友（日本福祉大学スポーツ科学部助教）
- 7) 同 大浜 真（NPO法人スマイルクラブ所属、パラバドミントン選手）
- 8) 事務局 大浜 三平（NPO法人スマイルクラブ理事）
久保田 いずみ（事務局スタッフ）

本プロジェクト結果（実績）

1 委員会の開催（オンラインにて開催）（別紙1）

- 1) 2020年7月28日（火）9～11時
- 2) 2020年10月19日（月）10～12時
- 3) 2021年3月3日（水）13～15時 3回の開催

2 ハンドブック資料（別紙2）

- 1) ハンドブックの作成（1,000冊）
- 2) 内容
 - ①総合型地域スポーツクラブについて
 - ②千葉県でのオリンピックとパラリンピック開催について
 - ③千葉県での総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツ事例
 - ④パラスポーツ紹介（パラバドミントン）
 - ⑤新型コロナウイルス感染症予防等
 - ⑥千葉県の活躍期待選手のインタビュー

3 CD資料（別紙3）

パラバドミントン説明動画のCD（100枚）

4 上記ハンドブックとCDの送付（197か所）

- 1) 千葉県内の特別支援学校および総合型地域スポーツクラブ134か所へ送付
- 2) 千葉県柏市内中学校（21か所）および小学校（42か所）計63か所へも
ハンドブック送付

2020年度スポーツ庁委託事業
 “障害者スポーツ推進プロジェクト”
 (地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

**CHIBA PARASPORTS PROJECT
 (CPP)
 NPO法人スマイルクラブ**

今回のプロジェクトの目的

障がい者スポーツ（パラスポーツ等）普及のための千葉モデルの構築

目的

新型コロナウイルス感染症時にも対応できる、障がい者スポーツを行う際の感染予防や対策に考慮した障がい者スポーツハンドブック等を作成するとともに、総合型地域スポーツクラブ、千葉県および広域スポーツセンター等と連携した障がい者スポーツ（パラスポーツ等）の普及について検討し、千葉モデルを構築する。

1 実行委員会
 2 障がい者スポーツハンドブック作成
 3 パラスポーツ紹介（パラバドミントン動画）

千葉モデル

CHIBA PARASPORTS PROJECT

千葉県体育課 広域スポーツセンター | 専 門 家 | スマイルクラブ

⇕ パラスポーツの普及

千葉県内総合型地域スポーツクラブ

ハンドブックと動画の内容

障がい者スポーツハンドブック

- 総合型地域スポーツクラブについて
 - 1) 全国および千葉県の状況（課題含）
 - 2) 新認証制度
- 千葉県でのパラリンピック開催について
 - 1) 種目
 - 2) 会場
 - 3) 日時等 ※チーバくん
- 千葉県での総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツ事例（事例：スマイルクラブ他）（スマイルクラブ）
- パラスポーツ紹介（パラバドミントン）
- 新型コロナウイルス感染症予防等
- 千葉県の活躍期待選手のインタビュー

パラバドミントン動画作成（DVD）

- 1 パラバドミントンカテゴリー、ルール等
- 2 パラバドミントン動き
- 3 自宅トレーニング

別紙2 ハンドブックの資料イメージ (抜粋)

『障害者スポーツ推進プロジェクト』 ←

CHIBA PARASPORTS PROJECT ←

(千葉パラスポーツプロジェクト) ←

ハンドブック ←

NPO法人スマイルクラブ ←

令和2年度 スポーツ庁委託事業
“障害者スポーツ推進プロジェクト”
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業) ←

smile club
knowledge where anyone can easily enjoy sports
SINCE 2000

1 総合型地域スポーツクラブについて

1. 全国および千葉県の実況

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブをいいます。1995年より文部省が育成モデル事業を実施し、2000年に策定された「スポーツ振興基本計画」においては、生涯スポーツ社会の実現のため必要不可欠な施策として総合型地域スポーツクラブの全国展開が盛り込まれ、多くのクラブが設立されました。総合型クラブはスポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手として、また地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

〔令和元年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査〕によると、2019年7月1日現在で、創設済みクラブ数 3,461、創設準備中クラブ数 143、クラブ育成率率は 80.5% となっています。また、千葉県における育成状況は、創設済みクラブ 82、創設準備中クラブ 10、クラブ育成率 66.7% と全国的にみて高いとは言えない状況です。

	市区町村	創設済み	準備中	育成クラブ数	育成市区町村	育成率
全国	1,741	3,461	143	3,604	1,401	80.5%
千葉県	54	82	10	92	36	66.7%

※クラブ育成率：創設済み又は創設準備中クラブがある市区町村数/市区町村数

2012年に策定された「スポーツ基本計画」において、総合型クラブの自主性・主体性を支える重要な要素である財源についてなどの状況が分析され、自己財源率が50%以下のクラブが半数以上を占め、財政基盤が弱いクラブが多いことや、また、総合型クラブの認知度は決して高くなく、クラブの理念・趣旨、特徴、地域住民の関与の仕方等に関する情報が広く行き渡っていないことが指摘され、総合型クラブより自主的に運営することができるよう運営面や指導面において周辺の地域スポーツクラブを支えることができる拠点クラブを育成することなどが施策目標として掲げられました。さらに2017年に発表された「第2期スポーツ基本計画」においては、総合型クラブ数の量的拡大から質的な充実により重点を移し、クラブの登録・認証等の整備、中間支援組織の整備、PDCAサイクルにより運営の改善を図る総合型クラブの増加、地域課題解決に向けた取組を行うクラブの増加、障害者の参加促進などが言及されました。

前述の「令和元年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」によると、総合型クラブでは、地域の

4 NPO法人スマイルクラブ

2 千葉県でのオリンピック・パラリンピック開催について

1. オリンピック・パラリンピックの競技と競技会場

千葉県で開催される競技
Sports to be held in Chiba

幕張メッセ (千葉市)

幕張メッセ (千葉市)

オリピック競技

パラリンピック競技

フェンシング
柔道
空手
卓球
バドミントン
アーチェリー
射撃
レスリング
水泳
サーフィン
乗馬

連絡先 CONTACT
千葉県観光交流局オリンピック・パラリンピック推進事務局〒270-0292 千葉県庁5階
電話 043-223-0428
メール chiba2020@chiba.pref.chiba.lg.jp

ホームページ 千葉県 東京2020オリンピック・パラリンピック
フェイスブック 千葉県 東京2020オリンピック・パラリンピックがやってくる! 検索

競技会場
Competition venues

幕張メッセ Makuhari Messe

1997年に建築した総合コンベンション施設「国際展示場」(国際展示場「幕張メッセ」)の3階建て増設で構成され、国内最大規模の熱気イベントやイベントが開催されている。

●オリピック競技 フェンシング、卓球、レスリング
●パラリンピック競技 ゴルフボール、シッティングバレーボール、バドミントン、車いすフェンシング

釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ
Tsuirigasaki Surfing Beach

九十九里浜の最南端に位置している。この海岸は波面が強く、力強い波が発生することから、サーフィンの国際大会も開催され、プロや上級者のサーファーが集まる。

●オリピック競技 サーフィン

千葉県 HP (<https://www.pref.chiba.lg.jp/>) より引用

NPO法人スマイルクラブ 7

3 千葉県での総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツ事例

1. 大穴スポーツクラブの設立経緯とスマイルクラブ

大穴地区は平成8年から2年間、文部省（現文部科学省）の「スポーツ活動推進モデル地域」として指定を受け、さらに3年間、船橋市教育委員会のモデル地区指定事業としてご指導をいただき、平成10年4月ジュニア部、9月シニア部が発足し、千葉県初の総合型地域スポーツクラブの大穴スポーツクラブが誕生しました。大穴地区は昭和30年後半から40年代にかけて宅地開発が盛んに行われインフラ整備が急務で、そのために住民の交流と結束が不可欠であった。そして手段の一つとして考えられたのが運動会の開催であった。それを契機として各種スポーツ活動が盛んになり、現在の大穴スポーツクラブの礎となりました。大穴スポーツクラブの活動場所は、地区内にある小中3校の体育施設開放利用を主な拠点とし、その他公民館、市の大穴近隣公園、大穴多目的広場、保健センター、自治会館など豊富に確保されており、学校体育施設の利用については、「3校学校体育施設開放利用運営委員会」を設置し、クラブ加盟80余団体による年次調整会議を経て利用しています。また、ジュニア部の活動は学校の部活動と位置づけ、活動時間は従来の部活動に準じております。シニア部は主に夜間とジュニア部の空いた時間に開放利用しています。大穴スポーツクラブのコンセプトは「スポーツ活動を通して健康なまちづくり」【楽しいスポーツライフ】【地域に貢献する】。

大穴地区は前述の通り事情により昭和48年の第1回大会から今日まで、長年にわたって住民の健康増進と住民及び各町・自治会の交流、絆を深める事業として運動会を開催しており、そのコンセプトの一つに運動の苦手な子ども（障害者）の参加を奨励し、交流を深めた経緯がありました。しかし、継続して定期的に行うためには、障害者に対する専門的知識と資格取得の指導者の確保など高いハードルがありました。折しも船橋市の障害者の保護者よりスマイルクラブさんに教室開校の要望により、主宰の太田さんからアプローチを受け、素晴らしいコンセプトと高い指導力のある「スマイルクラブ」に全面的に事業委託し、大穴スポーツクラブの構成員として活動をお願いしております。そして、現在では大穴地区のみならず地区外の障害者たちも参加しており、今更ながらスマイルクラブさんには感謝がいっぱいです。

図 大穴スポーツクラブの活動スタイル

NPO法人スマイルクラブ 9

別紙2 ハンドブックの資料イメージ (抜粋)

4 パラスポーツ紹介 (パラバドミントン)

パラバドミントンは、東京2020パラリンピック競技大会から正式競技です。上肢や下肢に障がいのある立位クラスと車いすのクラスがあります。立位クラスのダブルスはバドミントンと同じルールで、車いすクラスは狭いコートで行います。

パラバドミントンは、世界的な広がりを見せており、世界バドミントン連盟 (BWF: Badminton World Federation) が主催するパラバドミントン世界選手権大会は、2年ごと (奇数年) に開催されています。近年では、地域で行われるバドミントン大会に車いすクラスを設置し、障がいのない人が車椅子に乗って障がいのある人と一緒に参加するなど、障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとして注目されています。



スマイルクラブ主催パラバドミントン

1. クラス分け

パラバドミントンは、大きく分けて「車いす」と「立位」があり、障がいの程度により以下の6つのクラスに分けられています。

1	WH1	車いす	シングルス 半面
2	WH2		
3	SL3	立位	シングルス 全面
4	SL4		
5	SU5	低身長	シングルス 全面
6	SH6		

5 新型コロナウイルス感染症予防等

参加者のキーポイント

3密を避けましょう	体調が悪い時は参加しない
手洗い、マスク着用	日頃の体調管理も大切に

1. 日常生活の注意

- 3密を避けましょう
- 手洗い、手洗い、手洗い、マスク着用
- 食事を控える：行う場合は3密を避け、可能な限り人数、短時間で。
- 体調管理は、快食、快寝、快運動
バランスの良い食事、良質な睡眠、心地よく身体を動かす生活を日頃から目指しましょう。散歩やジョギング、また自宅でストレッチやヨガなどの軽運動でも効果が期待できます。



2. スポーツを行う/スポーツイベントに参加する際の注意

- 当日を含め、2週間以内に体調が悪い (例：発熱・咳・咽頭痛、疲労や疲労の異常、全身がだるいなど) 時は参加を辞退しましょう。高熱がなくても、新型コロナウイルス感染症が心配な場合は、同僚や家族など身近に感染が疑われる人がいる時も参加を辞退しましょう。
- 持ち物
マスク、タオル、ドリンク、ティッシュペーパー、ビニール袋、防虫剤、携帯用消毒液 (除菌シート)
*1: 観戦の場内のために会場が事前に用意されています。
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合も参加を辞退しましょう。



6 千葉県の実業団選手のインタビュー

選手選択技が広がる社会へ

香西 宏昭 車いすバスケットボール

パラリンピックという言葉や、障害者スポーツの存在は、東京パラリンピックの開催が決まってからというもの、たくさんの方々に認知していただくと実感します。認知度が上がってきたことにより、たくさんの方々に競技観戦しにきていただく機会が増えました。大歓声の中、試合ができることは選手として大変幸せなことです。しかし、認知度の向上が設備改善に繋がっているわけではありません。まだまだ体育館の利用が許されない現状があり、練習環境にも課題があります。

例えば、新しくワックスをかけたから使わないでほしい、バリアフリーが整っていないからなどなど。

私はドイツでプロ車いすバスケットボール選手として6シーズンプロリーグに参戦しました。ドイツには総合型地域スポーツクラブが至るところに存在し、スポーツが文化・生活の一部になっているように感じました。ドイツでは、車いすバスケのみならず、さまざまな障害者スポーツのクラブが総合型クラブの中にあり、私が所属していたチームもその総合型クラブの中にもありました。日本ではなかなか見られない姿だと思っています。

大学時代はアメリカのイリノイ州立大学に留学をし、車いすバスケットボール部員として約6年過ごしました。周りの人たちがとても協力的だったこともあり、アメリカにいる間、自分が車いすユーザーであることを感じることはほとんどありませんでした。アメリカには ADA 法という法律があることが大きな理由の一つだと思います。簡単に説明しますと「障害があることによって差別をしてはいけない」という法律です。自分の行動が制限されない感覚は、自分で考え、自分で選択する権利と責任の両方を兼ねてくれたように思います。

障害のある人が何がスポーツをしたいと思った時、日本ではまだまださまざまなハードルがあるように思います。車いすにも私は、アメリカやドイツで多くの経験をし、充実した日々を送らせていただきました。それはハード面だけでなく、仲間や人々の意識などソフト面の環境が整っていたためであったように思います。スポーツを楽しむことも、競技として高めていくことも、スポーツをする上で障害があることが選択技を決めることのない社会になるよう、私にできることを考えていきたいと思っています。



写真提供: NO EXCLUS



スポーツを通して豊かな人生を

樋口 政幸 車いす自転車選手

私は2003年24歳で交通事故により脊髄を損傷し、以来車いすを使用した生活を送っています。

スポーツをしようと思ったきっかけは、リハビリ中に会った理学療法士の先生の勧めでした。車いすでの生活は、消費カロリーが少ないので生活習慣病や血流不足による閉塞などの合併症を引き起こしやすく、スポーツをすることで健康を維持できるだけでなく、体力が向上することにより行動範囲が広がり豊かな生活を送れるようになってくれたためです。



半年近い入院生活後、リハビリセンターへ入用車いすマラソンに誘われ、初めはパラリンピックを目指すなど全く意識がなく、健康スポーツとして競技に励んでいました。

その中でタイムが向上し大会での順位が少しずつ上がっていくことはもちろんやりがいがありましたが、体力が向上したことによって AED、QOL が飛躍的に向上していったことがとても嬉しかったと記憶しています。

2013年に2020東京オリンピックが決定して以来、パラスポーツを取り巻く環境は大きく変化していくと認知されるようになり、選手の競技環境は飛躍的に改善されました。

それにより国内の競技レベルも徐々に向上してきていることはとても喜ばしいことだと思います。しかし、反面競技人口は増えてはいるわけではなく、むしろ減っていると感じます。

大分で開催されている国内最大の車いすマラソンでは90年代のピーク時500人近かった参加人数が、現在は300を下回っています。

今は環境が向上し、そのうえ交通環境等が安全になったことにより障がい者の数が減っていることは大きな理由ですが、パラスポーツの認知が高くなってしまったことも原因ではないかと思っています。もちろん私自身、今は競技力向上を最優先に活動していますが、振り返ってみると健康スポーツとして取り組んでいた時の、それまで考えられなかった段差がなくなったように、一人で旅行し手荷物を運ぶことなく簡単にいった、遠方の県で開催された大会へ初めて自分で車を運転して行ったこと等は、今の良い競技結果が得られたことに劣らない喜びがありました。

今は障がい者スポーツはパラスポーツのみが目立っていますが、今後このパラスポーツの盛り上がりにより地域スポーツが発展し多くの人が気軽にスポーツを始められるきっかけになり生涯スポーツとして取り組む方が増えるのではないかと期待しています。そうなることで東京パラリンピックをやって良かったと言えるのではないのでしょうか。



タイトルは
「すごいぞ!パラバドミントン!!」




パラバドミントン選手と解説者



パラバドミントンカテゴリー説明

立位



SU5
上肢障がい

SL4 SL3
下肢障がい
軽い 重い

SH6
低身長



車いす選手のトレーニング事例



スマイルクラブ概要

【沿革】

- ・ 1998年 任意団体として発達障がい児の教室を開催
- ・ 2000年 NPOとして認証
(総合型地域スポーツクラブとして)
発達障がい児の健康福祉支援教室「運動が苦手な子の教室」と「バレーボール教室」でスタート
- ・ 2005年 茨城支部(水戸市)設立
- ・ 2006年 第1回アジアワークショップ開催(北京市)
柏市協働事業「学校体育授業サポート(主に特別支援学級)」スタート
- ・ 2009年 第2回アジアワークショップ開催(千葉県柏市)
- ・ 2010年 横浜市内作業所運動指導スタート
(横浜市委託事業)
- ・ 2011年 熊本支部(熊本市内)設立
- ・ 2014年 山口支部(山口市内)設立
- ・ 2015年 放課後デイサービス事業スタート(1号店)
- ・ 2016年 放課後デイサービス事業スタート(2号店)

現在にいたる

【主な活動内容】

1. アダプテッドスポーツ(障がい者スポーツ)
 - 1) 発達障がい児も参加できる
「運動が苦手な子の教室」(児童)
「チャレンジスポーツ教室」(高校生以上、社会人)
 - 2) 障がい者スポーツイベント(パラスポーツ含む)
IDバレーボール大会(知的障がい者バレーボール大会)
フロアバレーボール大会(視覚障がい者)
デフバレーボール大会(聴覚障がい者)
シッティングバレーボール大会(パラリンピック種目)
パラバドミントン出前授業等
2. 放課後デイサービス事業
障がい児の個別運動指導「スマイルスポーツ塾」
3. スポーツ教室
バレーボール、バスケットボール、
バドミントンの教室や講習会等
4. 地域との連携
 - 1) 柏市協働事業「学校体育授業サポート」
(主に特別支援学級の体育)
 - 2) 「障がい者スポーツ推進」事業(文科省委託事業)
(柏市障がい者スポーツ推進連絡会)
5. シニアスポーツ(高齢者)準備中
軽スポーツ、心臓リハビリ運動教室、
介護・認知予防イベント等

【主な教室の指導風景】

(集団指導)
運動が苦手な子の教室



(個別指導)
放課後等デイサービス事業
スマイルスポーツ塾



(バレーボール等)
スポーツ教室



令和 2 年度 スポーツ庁委託事業
『障害者スポーツ推進プロジェクト』
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」

NPO法人スマイルクラブ



Homepage

<http://smile-club-npo.jp/>

E-mail

smile-c@jcom.home.ne.jp



〒277-0858 千葉県柏市豊上町23-29

TEL 04-7169-4183 FAX04-7169-3303

編集・発行 NPO法人スマイルクラブ 2021年3月

